

JAIF

国際結婚を考える会

Japan Association of Intercultural Families

会報誌第2号 www.kokusaikazoku.com/



【特集】国際結婚のこどもたちは今！

2021年が幕を開けました。本年もどうぞよろしく申し上げます。
COVID-19は収束するどころか、新たな局面を迎え世界中の社会生活に大きな影響が広がっています。

歴史的にもグローバル化とパンデミックは表裏をなしてきました。私たちは過去を顧み、現在と未来の生き方を考え直さなくてはならないのかもしれない。

JAIFも41年目に突入、これからも国際家族としてじっくりと活動と交流を続けていきたいと思います。会報誌もその一助になっていきたいと思ひます。

第2号をお届けします。Stay Homeしながらゆっくりお読みください！

【会報誌編集部一同】

Page	CONTENTS	
3	【特集】国際結婚のこどもたちは今！	
4	● パンデミックを経験する中、自らの美しさ 変化に対応する能力を感じて	マリク・ミーナ
9	■ 少なくとも私はいじめられたとは感じない 関心を持ってくれているんだったら、 仲良くなろうと思うんです。	H.Aさん (インタビュー)
14	■ 知らないと言う事が差別、偏見の始まり— 国籍を選択する必要が無くなる世界に。	M.Y
18	● コロナパンデミックは「他者に対して関心 を持ち続けること」の大切さをあらためて 教えてくれた。	E.K
21	■ 私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた 平和の象徴と考えたい	マーゴ 玲 マロニー
26	● ハーフでもダブルでもない多様性の中で 輝く私 — 複数のアイデンティティ要素が 生き方を左右する	カマーゴ 李亜
33	■ 「自分は何人？」の葛藤はない。私の中の日本 とイギリスは、こう変わっていった。	ハワード・フィオナ (Huffington Post掲 載記事)
36	2020年度JAIF開催イベントを振り返る	報告：イベント係
38	海外での新年の迎え方—韓国のお正月	Y.Y
39	会計係より 次回予告	
40	編集後記	



【特集】国際結婚のこどもたちは今！

お正月、白寿（百歳）の母親が、傘寿（八十歳）を迎えようとする娘にお年玉をあげて、お返しに肩たたき券をもらったという話を聞きました。いつまでも、親子は親子なんだとほほえましく思いました。

今号の特集は、成人した子どもたち7名に寄稿してもらうことができました。7名のJAIF Kidsたちが、これまでの人生を振り返り、今どういう考えをもってこの社会に生きているのか、率直に表現してくれました。ぜひ、じっくりお読みいただき、みなさまの感想もお寄せください。重国籍を持つ彼、彼女らに共通するのは、多様性を認めない、認めたくない社会、世論が偏見を生みだしていること、それに対して客観的にとらえることができる目をもっていることです。

奇しくも2021年1月21日東京地裁で、「二重国籍を認めない国際法は『合憲』と初判断」（なぜかリンクが存在しなくなっていますがかわりに[こちら](#)を参照）という結果がでました。まったく世界においてもかみあわない判決で、当会も長年署名活動や裁判への参加をしてきた経過もあり、今後どうやって世論も含め私たちが「違憲」であることを訴えていけるのか、まさしく、今回特集に登場してくれた若い世代にも力になってもらわねばと強く感じました。（YAHOOのコメント欄も読んでみてください。日本社会の今がわかります）そして、会のHP（[フォーラム](#)・[お知らせ](#)）に詳細が掲載されていますので、アクセスをお願いします。

また、[NHK](#)では当会のリード・真澄さんが取りあげられ、堂々と訴えてくださっています。弁護団のみなさまにも心からの感謝とまだまだこれから続く裁判に対し、JAIFも行動を続けていかないといけません。[請願運動 | 国際結婚を考える会 \(kokusaikazoku.com\)](#)はじめ、[キャンペーン・日本人が外国籍を取得した際、日本国籍を保持するか放棄するか選べるようにするため、私たちの運動を応援してください・Change.org](#) に賛同もしていきましょう。そして冒頭の親子のように末永く健康な生活を過ごせまうとともに歩んでいきましょう。



パンデミックを経験する中
自らの美しさと、変化に対応する能力を感じて
(原文ENGLISHは[こちら](#))

マリク・ミーナ (ロサンゼルス在住)



おかあさん

お元気ですか？ 今の状況からして、心から元気でいてくれることを願っています。2020年も終わりに近づき、目まぐるしかった1年を振り返っているところです。ロサンゼルスでは2020年3月以来、ロックダウン、解除、そしてまたロックダウンが発令される状況となっています。5歳の息子はやっと幼稚園（プレスクール）のデジタル授業が始まったばかりで、子どもを抱えてフルタイムで働く身としては、未曾有の試練の時を過ごしていると言ってよいでしょう。

むしろ、私は数多くの点で恵まれている

現在私は、午前8時の会議を皮切りにだいたい1時まで立て続けに会議に参加し、手早く昼食を済ませてから、授業が始まるまで息子と遊びます。それから週によっては科学や社会科学を教え、毎週水曜日と金曜日は音楽と芸術の授業もあります。5歳の子どもには毎日の運動も欠かさないで40分ほど犬の散歩にでかけ、その後おやつタイム。それから数時間は、レゴやブレインフレックスを使って遊んだり、サイドウォークチョークを使ってお絵描きをしたり。夕食の支度をしている間、息子が夢中になれることをみつけて時間を過ごすんです。夕食後は数時間仕事をこなしてから息子を寝かしつけ、犬の散歩にもう1度出かけ、台所のお掃除タイム。この段階で仕事が残っていればさらに仕事をするのですが、そうでなければ倒れ込むように眠りについてしまうの。これが2020年3月以来続く私たちの日常です。

パンデミックを経験する中 自らの美しさと、変化に対応する能力を感じて

マリク・ミーナ（ロサンゼルス在住）

こうした日課を書き連ねるだけでもぐったりしてきます。ただ現実のところ、こうした生活を送っているのは私だけではないんです。むしろ、私は数多くの点で恵まれていると言えるの。自宅でできる仕事に就いていること、一人親家庭ではないこと、ウイルスから身を守るための小さいながら安全な家があること、気候が穏やかなため毎日散歩に出かけられること、他にも多々あります。

親が抱く子どもたちへの罪悪感と社会への悲嘆

他の親たちと話していると、その口ぶりから彼らが疲労困憊の極みにあることがわかるんです。子どもがテレビやゲームに費やす時間が増えてしまって、就寝時間がまちまちになってしまうことで、自分が良い親ではないのではないか、という事実に対する羞恥心や罪悪感とも格闘していることや、国民にとって必要な支援を行わない政府に対する怒りについても耳にします。



でも何より彼らが口にするのは、日常が失われ、時間やパーソナルスペースを奪われた状況、そして友達と遊ぶ時間もなく、祖父母に会いに行くこともかなわず、旅行によって好奇心を刺激することもままならない子どもたちに対する悲痛な思いです。

また、最低限度の生活を送る人々をさらに痛めつける不公平なシステムや、何世紀も続く人種差別、黒人に対する殺害行為などの社会に対する悲嘆も聞かれます。私たちは皆、何らかの形で喪失を経験していて、この痛みを癒すにはかなりの時間と労力が必要となるだろうと感じています。



パンデミックを経験する中 自らの美しさと、変化に対応する能力を感じて

マリク・ミーナ（ロサンゼルス在住）

パンデミックにおいても生産的であることを求められ

私はこのところずっと、生産性（productivity）というものについて考えているの。資本主義を標榜する私たちの社会では、生産性とはすなわち社会における成功を意味します。

つまり、何かをより早く、より多く生み出すことができる人でなければ成功者とはいえないのです。誰もが悲嘆と喪失感に対処しなければならぬこのパンデミックにおいても、私たちは依然として生産的であることを求められています。

「常に自宅にいるなら、通勤時間が無い分、より多くの時間を仕事に費やせるでしょう？」「組織にとっては24時間年中無休で社員にアクセスできるでしょう？」「旅行もいけない現状では自由に使える時間はふんだんにあるのだから、これを新しいスキルの獲得や、料理や運動に費やすべきよ」とか。「新たにスキルを獲得できなければ、パンデミックにおける行動として間違っているのよ！」とか。

自分の価値が、『生産性』への寄与に値するの？

自分の価値が、生産性への寄与に値するののかという問題にも苛まれている。つまり、仕事に精を出して常時何かを生産していなければ、自分に価値が無いのではないかと思ってしまうの。こうした思考は、若い頃日本にいた時に生まれたものかもしれない。

私は日本人の母とインド人の父のもとに千葉県で生まれ、成長過程において触れた日本の文化でも、父の移民体験でも、成功するなら勤勉でなければならないとの教えが根底にあったと思うの。

昔からたびたび怠惰と言われてきた私は、やがて自分が怠け者であると心に刻むようになったわ。米国移住後は、こうした考えを払拭しようと躍起になり、周囲の人間よりも長時間働き、手早く仕事をこなすことに必死になってやってきた。

結果として多くの場合は疲れきってしまうか、あるいは病気になってしまったの。あの頃の私は、自分の価値、特に有色人種の女性としての自分の価値を上司や同僚に向けて常に証明しなければならぬと思っていたんだと思う。



パンデミックを経験する中 自らの美しさと、変化に対応する能力を感じて

マリク・ミーナ（ロサンゼルス在住）

自分を大切にしなければ、他人を大切にすることなどできない

パンデミックが始まった当初はアートをプロモーションする財団のスタッフとして、壊滅的な打撃を受けた業界において、苦勞するアーティストたちとの対話に多くの時間を費やしたわ。これまで以上に仕事にかられ、私は過度の仕事を引き受け、不要なプレッシャーを自らに課すようになってしまったの。そして、息子の教育においても自らに過酷な期待を担わせていた。こうしたプレッシャーは自分の働く組織や息子の学校から受ける場合もあったんですが、自分自身で背負わせたものでもあったのは事実。

今、どんな期待にも応えなくて良いのだと悟るまでには、ずいぶんと時間がかかってしまったわ。まずは自分を大切にしなければ、他人を大切にすることなどできないということ。自分に対し思いやりと寛大さを持たなければならないこと。生み出しているものがあるとなかろうと自分には価値があるのだということ。今この時に悲しみを自覚して休息を取ることは、怠惰な行為ではないということ。自分の体や心の訴えをきちんと聞いてあげても、なんの問題はないということ、などを。



パンデミックを経験する中 自らの美しさと、変化に対応する能力を感じて

マリク・ミーナ（ロサンゼルス在住）

私は現状を見失うことなく、最も大切に思うものの中で生きている

今はミクスド・レイス（mixed-race）の息子を抱える40歳の母親として、自らが成長過程で構築した生産性に関連する考え方を払拭するよう努めています。これまでの軌跡を考えると、自分の中に美しいものやレジリエンス（変化に対応する能力）があると感じます。人生を振り返れば、異なる国でどうやって生き抜いて来たのかや、その中で成功するためになし得てきたことから、レジリエンスを感じます。私の中にあるこのレジリエンスのおかげで、今回のパンデミックにおいても私は歩みを止めず、自分の思う最良の自分でなくとも、家族のために頑張ることができているんだと。息子を見ると、彼にもこうしたレジリエンスがあるのを毎日感じています。

日常とはかけ離れたこの時間を受け止め、それでもあらゆる瞬間に楽しいこと喜びを見つける息子の存在によって、私は現状を見失うことなく、最も大切に思うものの中で生きていることができます。

すべてが不確実性に包まれている今この時に、確実にわかっていることが1つだけあります。息子は何があっても私を愛してくれる、ということ。彼にとって最も重要なのは私が彼と時間を過ごし、必要な時に彼のそばにいることなのです。

お母さんとダディが心安らかに新年を迎えられることをお祈りしています。2021年にはお互いに会えるようになることを心から願っています。

愛をこめて、美奈



※原文は英語（翻訳協力：ザ・サードアイ・コーポレーション・多言語翻訳ネットワーク
(thirdeye.jp) ボランティア)

少なくとも私はいじめられたとは感じない、関心を持ってくれているんだったら、仲良くなろうと思うんです。

H.Aさん（神奈川県在住）

今回はコロナ禍の影響もあり、直接お会いしてインタビューはかなわなかったのですが、以前我が家に縁あって滞在し交流を続けさせていただいているH.Aさんがリモートで快くインタビューに応じてくださいました。

（コールマン・ひろみ 2020年12月4日インタビュー）

ナイジェリアの思い出

ひろみ：Hさん、今日はお忙しいところお時間を作ってくれてありがとうございます。お仕事忙しいんですか？

Hさん：はい、今ITエンジニアとして働いていて結構帰りが遅い日もあります。

ひろみ：Hさんと初めてお会いしたのが4年位前ですよ？

JICA（国際協力機構）のインターンで夏休みに私の家に1週間ぐらい滞在されたんですね。

Hさん：その節は大変お世話になりました。申し込みが遅くてJICAの準備してくれた寄宿舍がすでにいっぱい近隣のビジネスホテルも予約が取れなくて困っていたところ、関係者の紹介でひろみさんのお宅にステイすることが出来て本当に助かりました。しかもアメリカ人のご主人様も、当時高校生だった息子さんも親切で楽しい思い出です。

ひろみ：その後ご家族の皆さんお元気ですか？ 確かお父さんはナイジェリアの方で、お母さんは東北生まれの日本人女性でしたよね？ ご両親の出会いはお聞きしていますか？

Hさん：はい、やはり母もボランティアでアフリカに滞在していて父と出会ったそうです。私と弟はナイジェリアで生まれました。その後、私が3歳の時に家族で日本に来ました。

ひろみ：ナイジェリアでの思い出はありますか？

Hさん：母がちょうど仕事で家を数日不在にしていた時、私がマラリアにかかってしまい父が病院に連れて行ってくれたんですが、熱が高くて大変だったそうです。私の記憶は病院の天井ですね（笑）、きっとしばらく入院してたんだと思います。マラリアは今でも手当てが遅れると死に至る怖い病気です。

少なくとも私はいじめられたとは感じない、関心を持ってくれているんだったら、仲良くなろうと思うんです。

H.Aさん（神奈川県在住）

目立っていた子ども時代、誰とでも仲良くなれた

ひろみ：Hさん、まだ20代でお若いですが、今までの人生を振り返ってどんなことがありましたか？

Hさん：日本に帰国して保育園に入園した時は、話せるのは英語だけで日本語が分からなくて一人で絵ばかりを描いてたんですよ。でも卒園の頃にはすっかり日本語に慣れて、おしゃべりしてましたね。

小学校でも、沢山の友達に囲まれて楽しかったですよ。学校の中で私と弟は、目立っていたのかよく話しかけられることが多くて、自分が個性的であることがかえって良かったんだと思っています。すぐに誰とでも仲良くなれたのは、ラッキーなことだと思っています。

私は駆け足が早くて常にリレーの選手だったんですね。このことも注目される点で嬉しかったし自信にもつながったと思います。スポーツクラブに色々誘われましたね。陸上部に在籍したこともあったんです。でも個人競技って孤独にひとりで記録に向き合うじゃないですか、性格的に合っていないくて結局続かなかったですね。

ひろみ：才能があったのになんかもったいない感じですけど。

Hさん：いいんです。でも高校生の時に本格的にダンスクラブに入りました。けっこう熱心に活動してました。ダンスは本当に楽しかったですね。みんなで作り上げていくことが好きなんです。それと歌も大好きです。



少なくとも私はいじめられたとは感じない、関心を持ってくれているんだったら、仲良くなろうと思うんです。

H.Aさん（神奈川県在住）

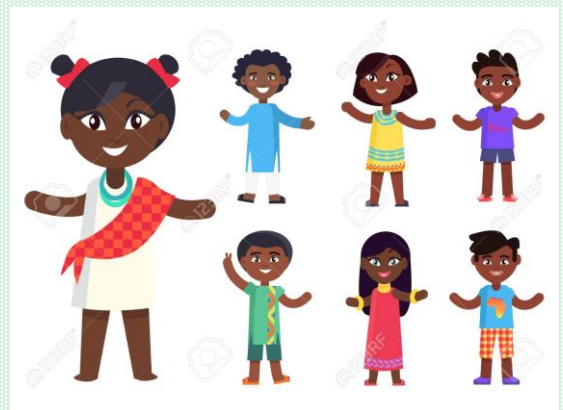
アフリカへの使命感から選んだ大学

ひろみ：ご自分の将来について考え始めたのはいつ頃からですか？

Hさん：大学を選ぶ時ですね。自分のルーツでもあるアフリカへの使命感というか、貧しさとかまだまだ課題がいっぱいあることももちろん知っていましたから、もっと知りたいとかどうしたらいいか知識を深めたいそういう気持ちに向き合うべきだという自分がいることに気が付きました。それで自分なりに色々調べて国際食糧情報学部へ進学しようと思ったんです。

ひろみ：ご両親は何とおっしゃってましたか？

Hさん：両親には特に相談してません(笑)。でも父には勉強することは自分を助けることだって、日ごろから言われていたので大学へは行こうと思ってました。母はとっても明るくていつも忙しく仕事と家族の世話をしてくれてますが割と何を言ってもあっさりしてるというか、きっと信頼してくれていたんだと思いますけど。どちらかと言えば父の方に色々相談することが多いです。父はほんとに苦労してるんです。ですから将来、途上国の助けになる仕事がしたいなと考えて自分で選びました。大学生の時のJICAでのインターンも自分で調べて申し込みました。残念ですが、色々事情があってこの仕事には就けなかったんですけど。



少なくとも私はいじめられたとは感じない、関心を持ってくれているんだったら、仲良くなろうと思うんです。

H.Aさん（神奈川県在住）

ひろみ：将来の計画はありますか？

Hさん：現在はITのエンジニアをしていますが日本人の婚約者がいて、彼の仕事の関係で将来はアメリカに移動する予定があります。また、父の故郷であるナイジェリアへもいつか絶対行ってみたいと考えてます。両親は時々アフリカに行きますけど、私は子供の時以来、帰ってませんから。

ひろみ：Hさんのご両親はとっても仲がいいんですね。ところでHさんの国籍ってどうなっているんですか？

Hさん：ナイジェリアと日本の両方です。

ひろみ：そうですか。

ナイキのコマーシャルを見て

ひろみ：では最後に一つ聞いてもいいですか？

ナイキのコマーシャル見ましたか？

https://www.youtube.com/watch?v=G02u6sN_sRc

ちょっと話題になっていますよね、Hさんの感想を聞かせてください。アフリカ系の女の子が囲まれてみんなに髪の毛をさわられるという場面があったんですがどう感じましたか？

同じような経験はありましたか？

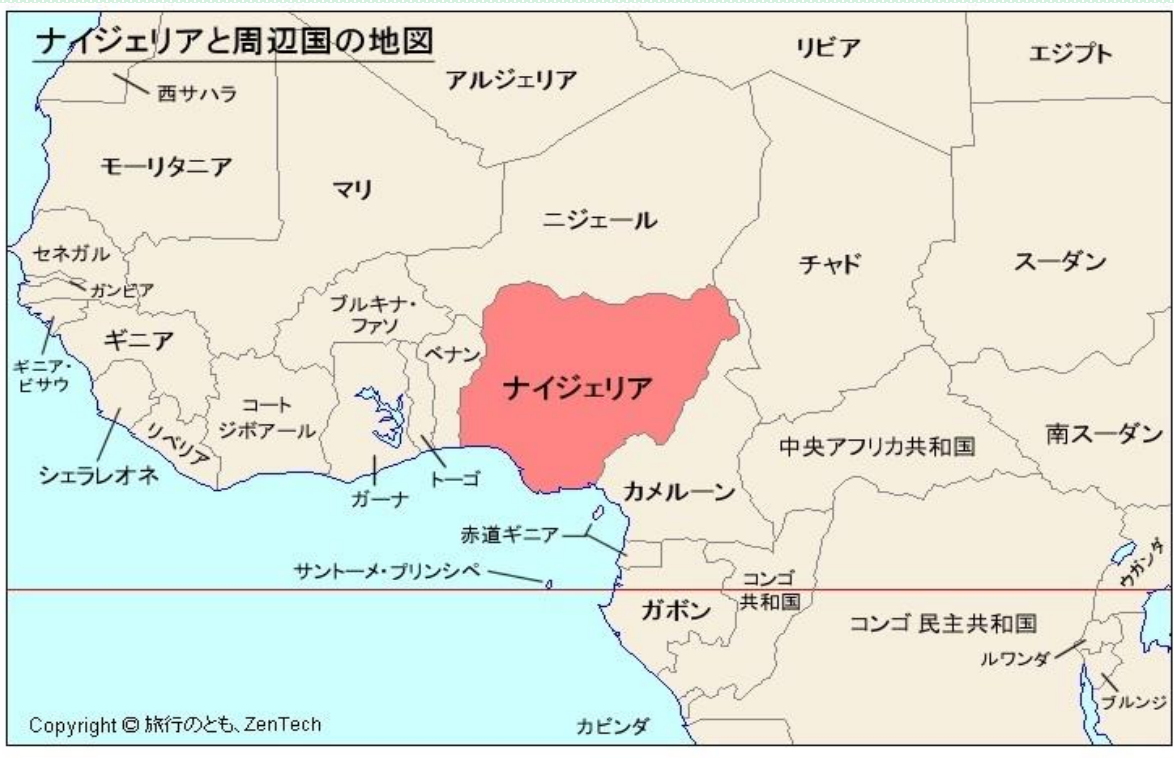


少なくとも私はいじめられたとは感じない、関心を持ってくれているんだったら、仲良くなろうと思うんです。

H.Aさん（神奈川県在住）

Hさん：ありました！というかあります。髪の毛って女の子は気になりますよね。触ってもいい？ってよく聞かれます。でもそれが私は嫌じゃないんですよ、スキンシップを通してすぐに仲良くなれちゃうじゃないですか。友達が出来た機会になったというか。なんでも捉え方だと思うんですよ。少なくとも私はいじめられたとは感じない、関心を持ってくれているんだったら、仲良くなろうと思うんです。
もちろんひとりひとは違う人間なんだし、押し付けることは出来ないけど、捉え方がとても大切だと思ってます。
友達に囲まれている自分が幸せだと感じてますね。

インタビュー後記：モデルさんのようにスレンダーでとっても美人なHさん。明るくて快活で本当に魅力的な女性でした。人気者なのがよくわかります。



知らないと言う事が差別、偏見の始まり—国籍を選択する必要が無くなる世界に。

M.Y (東京在住)

私は「地球人！」台湾、日本、アメリカでの生活は貴重だった。

現在、私は東京でアパレルIT業界のスタートアップの会社で働いています。父が台湾人で母が日本人のダブルです。日本の千葉県で生まれ、台湾の高雄市で育ちました。中学校までは台湾の現地校に通い、高校と大学の7年間は日本の学校で学びました。大学卒業後、アメリカ、ニューヨークでファッションマーケティングを勉強し3年間過ごしました。

幼い頃母と日本語で話していると友達から「あなたは何人なの？」とよく聞かれました。母にそう言うと母は「”地球人！” っていう方がいいよ」と言っていました。私はその答え方が大好きで今でもたまに使っています。

これまで台湾、日本、アメリカといろいろな場所で過ごしてきましたが、幸せなことに特に嫌な思いをした記憶がなく、環境や周りの人達にも恵まれ生きてきました。心地よく生活できる環境を与えてくれ、また私たちダブルである姉妹の気持ちを理解し、強く生きるよういつも寄り添い、守ってくれた両親にとっても感謝しています。

台湾での中学校の歴史の授業で日本統治時代の勉強をしていた時です。クラスメイトから、教科書に載っていた当時の日本人に対してのよくない呼び方で呼ばれ、嫌な気持ちになった事があります。

私はかなり気の強い子で言った子にやめてくれるよう、きっぱりと言いました。それ以降その子は嫌な呼び方をしませんでした。その時、はっきりと相手に自分の思ったことを伝えるとそれが相手にしっかり伝わるのだと感じました。それ以来自分の気持ちや考えをきちんと伝えることを意識し、大切にしています。



知らないと言う事が差別、偏見の始まり—国籍を選択する必要が無くなる世界に。

M.Y (東京在住)

日本人のくせになぜ敬語がわからないの？

日本では国際高校に通ったので、色々なアイデンティティーを持っている友達がたくさんできました。ダブルは少なかったのですが、生まれ育ちが海外という日本人の友達がたくさんいて、視野が一気に広がりました。それでも1年生の部活動の時、敬語を知らず先輩に怒られたことがありました。アジア系のダブルで、見た目はダブルに見られなく、母からの教育のおかげで日本語の発音が普通の日本人と変わらなかったで、逆に周りの人から日本人のくせになぜ敬語がわからないのかと変な目で見られました。

私としては初めて日本で生活して、全くの日本人ではないのになぜ、そんなことを言われるのかと違和感を感じたのを覚えています。



大学に入り、日本生まれ日本育ちの友達と接することが増えました。最初はみんなとうまくやっていけるか少し不安でしたが、とても良い友達に恵まれ、みんな受け入れてくれました。私の話しを聞いて留学することを考えるようになったとか、海外・台湾に行ってみたい、と言われたりして、本当に嬉しい気持ちになりました。

知らないと言う事が差別、偏見の始まり—国籍を選択する必要が無くなる世界に。

M.Y (東京在住)



ニューヨークタイムズ`スクエア

色々な言語を自由に使う方が楽しく、ラク！

アメリカは移民大国で特にニューヨークはダブルどころかミックスの人が多く、台湾や日本では3ヶ国語を話す私は周りから特別に見られる事が多々あったのですが、そこでは何も聞かれることはありませんでした。ダブルであったり、ミックスであることは特別なことではなく、みんな普通に当たり前のように接してくれました。

授業で英語を使い、午後友達と中国語でお喋りをし、夜は日本の友人と日本語で話す生活。私は一日中同じ言語を使うより、色々な言語を自由に使う方が楽しく、楽でした。

色々な場所で過ごした私ですが結局日本に帰り、日本の会社に入りました。台湾やアメリカより断然色々なことに対し、面倒なルールのある日本なので悩みましたが、自分のしたい事ができる会社に入ることを優先して決めました。それに私は私、人の目を気にしないという性格でもあり、どこでもやっていけるという自信もありました。また自分をよく知る事も大事で、気の合う仲間、自分に合っている会社を選んだ事で、今は嫌な思いをする事がないように思います。

知らないと言う事が差別、偏見の始まり—国籍を選択する必要が無くなる世界に。

M.Y (東京在住)

私たちはなぜ一つの国を選ばなければいけないの？

2020年はコロナ禍の中、色々な社会問題がクローズアップされ、今まで真剣に考えた事がなかった人も一度じっくり考える年になったのではないかと思います。

私にとってもより一層自分と向き合う、そんな年になりました。日本では私たちはなぜ一つの国を選ばなければいけないのか、一つの国でなくてはいけない理由はなんなのか、と以前から思っていたのですが、アメリカに行ってその思いがさらに強くなりました。

私たちダブルは生まれ持った他の人にはないものがあると思っています。それは一つの国だけではなく、どちらの国の事も心の底から大切に思うことができ、また逆に冷静に客観的に見ることができるといことです。だからこそ、私は自分をハーフではなく「ダブル」と表現し、どちらの国も多様性を尊重し、広い包容力を持つ国になって欲しいと願っています。

私はこれからも自分が持っているアイデンティティーを誇りに感じ大事にしていきたいと思っています。知らないと言う事が差別、偏見の始まりだと思っているので、私たちダブルの現状をもっと多くの知らない人たちに知ってほしい、できれば少しでも理解してほしいと願っています。

そして、私たちが国籍を選択する必要が無くなる、いつかそんな国になってほしいです。



コロナパンデミックは「他者に対して関心を持ち続けること」の大切さをあらためて教えてくれた。

(原文ENGLISHは[こちら](#))

E. K (ドイツ在住)

日本とドイツで働く

2020年は、普段と異なる1年となりました。個人的には、33歳にして新たな段階に突入したという気がしています。

日本で生まれ、2歳の時に父の故郷ドイツに移り住み、学校生活をドイツ西部で過ごした後、再び日本とドイツを行き来することになりました。

日本とドイツの両方のパスポートを持っているので、26歳の時就労ビザではなくインターンシップを利用して日本企業で6ヶ月働き、結果として2015年からフランクフルト近郊にあったその企業のドイツ支社に就職することとなりました。2018年に会社から日本本社への2年間の異動を命じられ、2020年2月まで本社で働いた後、3月にフランクフルトに戻りました。以後はメカトロニクスエンジニアとしてこの地で仕事をしています。

トルコ人女性との結婚

2020年は個人的にも変化が起こった年でした。2019年末にトルコ人の恋人と結婚し、一緒に住むことになりました。が、自分たちの住居、彼女のビザ、ドイツ行きの航空券の予約などすべての物事が解決したと思ったまさにその時に、コロナパンデミックに襲われ、彼女のドイツ到着が遅れました。眼前の状況にどう対処したらよいかわからないまま、やむなく2か月間離れて暮らしました。幸い彼女は5月にはドイツに入国でき、やっと二人の生活を始めることができました。



アジア人への人種差別

現在のパンデミックのような特殊な状況に置かれ、僕は改めて自分たちの生活について考えています。自分に対する直接的な影響は無いものの、「チャイナ・ウイルス」がもたらしたヨーロッパにおけるアジア人への人種差別、そしてアジア系の人々がどのように立ち上がったかなどのニュースを見ていました。例えば「Je ne suis pas un virus (フランス語で「私はウイルスじゃない」) キャンペーンなどの様々なニュースをフォローしました。幸いにも、僕は過去も現在もこうした差別に直面したことはありませんが、他の人のニュースを見聞きして不安を覚えたことは確かです。

コロナパンデミックは「他者に対して関心を持ち続けること」の大切さをあらためて教えてくれた。

E. K (ドイツ在住)

2つの文化の影響は積極的な生き方に

自分が日本人とのハーフというバックグラウンドを持っていたことは、僕の人生においてはどちらかと言うとプラスに働いています。日本でもドイツでも、人は好奇心からそれぞれの文化について色々なことを僕に聞いてきました。たいていの場合彼らにとっては、母国語でこうしたことを質問できるめったにないチャンスだからです。

例えば学校では先生も生徒も興味津々で僕に質問を投げかけてきましたし、今でも同僚が僕に日本の習慣、食べ物、礼儀作法などについて聞いてきます。ドイツ人社員が多く勤めている日本の企業で働いているので、ドイツ人と日本人の同僚の翻訳やコミュニケーションの補助をすることが仕事の大半でもあります。

バイリンガルとして2つの文化の影響を受けて育ったことは、新しい物事に挑戦し学習する際の僕のやり方に色濃く反映されています。僕は旅行や言語学習が好きで、そこから得た新たな視点を自分の人生に取り入れることにも積極的です。トルコ人女性と結婚した今は、ドイツ人と日本人のアイデンティティを兼ね備える自分の中に、いくらかトルコらしさを取り入れることに挑戦しています。

差別心は誤った固定観念から発生する

今まで僕が経験してきたポジティブな面も、現在ウイルス関連で起こっているアジア人への人種差別も、僕に「自分の周りにいる他者に対して関心を持ち続けること」の大切さを教えてくれます。差別や攻撃性は、誤ったイメージ、固定観念に起因して発生します。お互いのことを学ぼうとする意志を持ち続けていれば、お互いの中にある心理的な障壁を軽減できると思います。



コロナパンデミックが改めて明らかにしたのは、最悪な時を過ごしている人々は誰かをやり玉に挙げたがる傾向にあるということです。人種によってあるグループを非難することは、問題の解決にならないということを学ぶべきではないでしょうか。

コロナパンデミックは「他者に対して関心を持ち続けること」の大切さをあらためて教えてくれた。

E. K (ドイツ在住)

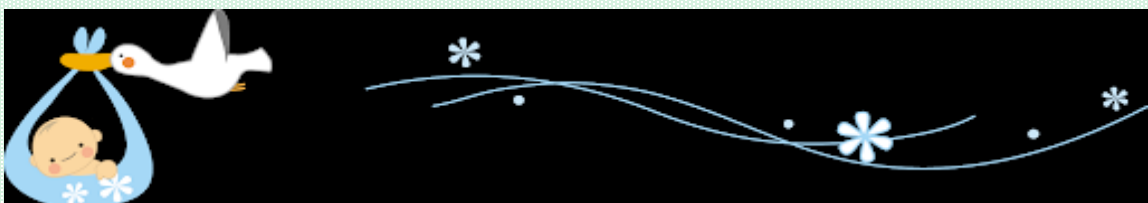
「ハーフ」という呼び名は日本以外の国では説明できない。

差別についてもう少し話すと、日本では多くの人が「ハーフ」と言うのを差別用語だと考えているため、僕たちに対して何て呼ばれたい？と聞いてきます。つまり「ハーフの人」というのは「半分の人、すなわち完全ではない人」を意味するから、と言うのです。こうした意見に異論はありますし、「ハーフ」というのは自分の出自を見事に言い表していると思いますが、個人的に僕はこの言葉を使わないようにしています。この言葉が差別に当たるからではなく、日本以外の国ではうまく説明ができないからです。人種に対する話題は厳禁というドイツ社会で育ったため、その影響を受けているのかもしれませんが。

特にドイツでは、「混血」という言葉を使うことは禁忌とみなされます。ですから、なぜこうした言葉が自分を見事に表しているのか説明するには多大な労力を必要とする可能性があります。見た目がドイツ人らしくないため、僕はよく自分のことを「ハーフ」ではなく「日系人」と言います。外見の説明になる一方で、毎回自分の出自をすべて説明する手間が省けるからです。もちろん2つの言葉が同じ意味でないのはわかっていますが、毎回自らの正当性を主張する必要なく自分のことを言い表すくらいの権利は、誰もが持っているはずですから。

将来の世代は・・・

ただ、グローバル社会の発展が続けば将来の世代ではこんな問題はなくなっていくかもしれません。例えば僕たち夫婦に子どもが生まれたら、彼らは3つの国のバックグラウンドを持つこととなります。そうなれば、両親の母国なんて気にする人はいないでしょう。複数の国の出自を有する家族として暮らしている僕としては、いつかこうした状況がどの国でもより普通のこととなるよう願っています。



※原文は英語 (翻訳協力: [ザ・サードアイ・コーポレーション](http://thirdeye.jp)・多言語翻訳ネットワーク thirdeye.jp) ボランティア+カマーゴ李亜)

私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた平和の象徴
と考えたい

(原文ENGLISHは[こちら](#))

Margeaux Rei Maloney マーゴ玲 マロニー (USA フロリダ在住)



すべての演奏会がキャンセルになって考えたこと。

はじめまして！私はマーゴ玲 マロニー、28歳です。

アメリカのジョージア州アトランタ生まれで、母は東京出身の日本人、父はニューヨーク出身のアイリッシュ系アメリカ人です。私はプロのバイオリニストで、フロリダ州マイアミビーチのニュー・ワールド・シンフォニーに在籍しています。小学校で2年間シカゴにいた以外はハイスクール2年生までアトランタで育ち、ハイスクールの後半2年間はボストンの寮学校、大学はNYマンハッタン、大学院ではロサンゼルスに住み、その後マイアミビーチに移りました。

3月に起こったシャットダウンにより演奏会も全てキャンセルとなったため、たっぷりと時間ができた私は、アメリカで生まれ育ち、現在も在住する「ハーフ“halfie”」としての自分のアイデンティティについて、深く考えました。ハーフであることについては、「半分はこれでもう半分はこれっていうわけじゃなく、全体で1人の人間でしょ」とよく言われます。確かにこれは正しい意見でしょう。でも自分がハーフだから、どちらの側に就くか決めなければいけないと思うことや、何かの問題について意見を述べる権利が無いのではと思うことがあるのです。ハーフじゃなくてダブル“double”だ、と言いたがる人もいますが、この言葉はこの言葉で、二枚舌とか、二重人格のような意味にとらえられがちで、あまり良い印象ではないと感じます。

私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた平和の象徴 と考えたい

Margeaux Rei Maloney マーゴ玲 マロニー (USA フロリダ在住)

アジア人はお酒を飲むと赤くなる？



ここアメリカでは、見た目が白人っぽくフランス系の名前を持つ私は、日本人とのハーフと言うといつも驚かれます。あるいは、飲みに行った際にお酒を飲んで真っ赤になる私を見て、一緒に行った人は私のことをすぐにアジア人だと認識します。「すごく素敵じゃない！」と肯定的にとらえてくれる人もいますが、多くの場合は「本当に？全然ハーフに見えないよ」とか、

「マジで？」といった反応が返ってきます。どちらにしても、特に「マジで？」と言われるとしらけた表情をしたくなりますが、もちろんそんなことはせず礼儀正しく微笑み（日本人みたいでしょ？）、その後気まずい沈黙が流れるままにするか、お酒をすすることになっています。日本では、私が日本語を話すと皆混乱した表情を見せます。そして、大抵の場合は皆私に親切にしてくれますが、私にはそれが、私の見た目が“gaijin”だからだろうと思えます。

からかわれていた母の手作りお弁当が今では大人気！

私は主として白人の居住区域で育ち、白人が大半を占める学校に通っていました。16歳で芸術関係の全寮制学校に進むまでは、親族以外の日本人との交流はサマースクールで出会った日本人クラスメート、母の友人たちやその子どもに限られていました。青少年オーケストラなどで他のアジア人との交流はありましたが、その場合でも私のような、特に見た目が白人っぽいハーフは非常に数が限られていました。その場になじむために自分が日本系であることを完全に隠す必要に迫られたことはありませんが、特に小学校や中学校の時には、クラスメートのようになりたいたと思った時期がありました。

私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた平和の象徴 と考えたい

Margeaux Rei Maloney マーゴ玲 マロニー (USA フロリダ在住)

例えば、母は私のお弁当におにぎり、卵焼き、唐揚げ（私の好きなものばかり！）を入れることがありましたが、他の子にとっては珍しいため「うえー、やだ」とか、「どうやって食べるの？」などとからかわれることがありました。帰宅後私は母に、「ほかのお母さんと同じように、ハムチーズサンドウィッチやピーナツバターとジャムのサンドウィッチにして」とせがんだものです。今ではお弁当箱は大流行りです。大学でも、自分で作ったお弁当（えらいでしょう？）を持っていくと、友人は皆「わあ、すごく美味しそう！」とか、「どうやって作るか教えて！」と言ってくれたことがありました。若い頃の私には、お弁当箱がアジア以外の地域で人気になるなんて絶対に信じられなかったでしょう。



「あなたはどっちの側につくの」戦争の歴史をめぐって

学校の歴史の授業でも、真珠湾攻撃や広島・長崎への原爆投下の問題が取り上げられる際には、いつも気まずい思いをしていました。よく名指して「あなたはどっちの側につくの」と聞かれたからです。幸い、先生がすぐに割り込んで矛先を変えてくれたので助かりましたが、今になっても違和感が拭えません。私はどちらか選ばなければならないのでしょうか？ 具体的な例を1つ挙げてみましょう。ジョン・アダムスという作曲家の作品に「[Doctor Atomic](#)（原爆博士）」というオペラがあります。タイトルから窺えると思いますが、原子爆弾の実験に至るまでの出来事を描いた物語です。音楽的に非常に優れたテーマをいくつか包含したオペラではあるものの、語られている出来事を考えると、このオペラを好きだと言うのは個人的に罪悪感があり、間違っただけのように思ってしまう。

私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた平和の象徴 と考えたい

Margeaux Rei Maloney マーゴ玲 マロニー (USA フロリダ在住)

こうしたことを通じて、私は自分の生い立ちについて深く考えるようになりました。私の母方の大伯父は神風特攻隊として戦死しており、一方父方の祖父は誇り高きアメリカ海軍の退役軍人です。私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた平和の象徴と考えたいと思っています。



単一の人種や単一の国籍に依存しない、自分の頭で考えられる自信を持った人間に。

自分の育ちに多少嫌悪感を抱えているように感じられるかもしれませんが、私自身は常にハーフである自分の出自に誇りを抱いてきました。成長する過程で多くのハーフにも出会い、私は単一の人種や単一の国籍に依存しない、自分の頭で考えられる自信を持った人間になりました。ハーフであることは、素晴らしい賜り物なのです。

自分の外見や育ち方のおかげでより広い視野とより多くの友人に恵まれたと思いますし、家庭でも日本語と英語を両方話して育ったことは、私にとってこの上なくありがたいことでした。そうでなければ、全く違う人間となっていたと思います。過去10年のうちに東京でアメリカ人の友人と会う機会がありましたが、友人に東京を案内して回るのは喜び以外の何物でもありませんでした。私のミドルネームは玲瓏（れいろう）の「玲」からとっています。玲瓏とは、「美しい音色」を表すそうです。祖父が私のためにこの漢字を選んだそうですが、何らかの形で、将来私が美しい音色を奏でること、すなわち音楽を生業とすることがなぜかわかっていたのかと、いつも不思議になります。

私は自分のことを悲惨な戦争の後に訪れた平和の象徴 と考えたい

Margeaux Rei Maloney マーゴ玲 マロニー (USA フロリダ在住)

舞台に再び上がる日を心待ちにして

パンデミック発生以来の私の生活は、他の人々と同様奇妙なものとなっています。一番よく使うアプリはZOOMで、3月7日以来、屋内施設において観客の前で生演奏を披露することはありません。おそらく2021年秋までは難しいでしょう。10月初め、観客数を小規模に抑えた屋外コンサートにおいて2度演奏しましたが、3月以来初めて浴びた喝采は、これまでの人生の中で私が耳にした最良の音の一つとなりました。大勢の観客によって生まれるあのエネルギーを感じられないのはとても残念ですが、ライブストリームにより生で演奏を見ることのできない観客にもパフォーマンスを届けやすくなったと思います。

舞台に再び上がる日、そして（検疫無しで）来日できる日を、心待ちにしています。

マーゴさんから会報誌用に演奏を届けていただきました。
素晴らしい音色をお楽しみください。

<https://youtu.be/Srue31ZEcRU>

所属するオーケストラの企画、From Our Living Room
To Yours から



<https://www.youtube.com/watch?v=49K72ykSx20&list=PLdViFY-O7WTbi9YvVAo064i6EAgQQ-xWp&index=11>

千と千尋の神隠し『あの夏へ』をバイオリンで弾いてみた。JHM Covers "One Summer's Day" from Spirited Away (violin + cello + piano)

※原文は英語（翻訳協力：ザ・サードアイ・コーポレーション・多言語翻訳ネットワーク (thirdeye.jp) ボランティア)

ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

Lia Camargo カマーゴ李亜（東京在住）

私のアイデンティティは国籍だけではない。



弟、晁の成人式（2016年）記念写真

「ハーフ」という言葉に抵抗を持ち始めたのは、何歳だったのかは覚えてないけれど、小学生の頃かな。当時も国際結婚を考える会で活動していたママから「あなたたちはハーフじゃなくてダブルなんだよ」と言われたのを覚えている。でも、ダブルという言葉がなかなかしっくりこなくて、今でも自ら「ダブルです」と言ったことはないの。

ハーフは「半分日本人」という偏見的なニュアンスを持った言葉だから、倍という意味のダブルを使おう、異なるルーツを持つ人は、「半分の人間」ではなく「完全な人間」である。意図はわかるがそれでも馴染みのない表現。

私の一番話しやすい言語は、日本語と英語が混ざったジャパングリッシュ（Japanglish）。私が通ったインターナショナルスクールではカナダ、フィリピン、アメリカ、イギリス出身の先生がいて、一緒に育った友達全員出身地がバラバラ。2つ以上の文化が混ざった中で育った私には、「2」という数字にこだわる必要がない。国籍は2つ持っていることは事実であり、そういう意味では自分を表す言葉を「2」でおさめることは可能だけど、私のアイデンティティは国籍だけではない。だからと言って自分から「ハーフです」とは言わないようにしてる（「ハーフですか？」と聞かれるのは日課のようなものだけだね。）

ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

Lia Camargo カマーゴ李亜（東京在住）

ハーフ＝親のどちらかが日本人、という一般的に受け入れられている定義であって、私は当てはまらないし。コロンビアで生まれアメリカで育った父と、日本で生まれ育った在日コリアン2世の母の間に生まれ、日本の「ルーツ」はハーフどころかゼロに近い。

DNA検査キットで遺伝子ルーツを調べてみた結果 は・・・アイデンティティを言葉で表すことは必要？

一昨年、「[23&Me](#)」というDNA検査キットで自分の遺伝子ルーツを調べてみた。生物学にもともと興味があったこともあるが、当時住んでいたボストンではバイオテクノロジーの研究所や製薬会社が密集している地域で、周りに遺伝子に関して詳しい人が多かったからか、自分の遺伝子でルーツや遺伝病の確率を調べられるサービスを使ってみたかった。唾液を採取するだけで先祖がどこからきたのかがわかる、こんな科学的進歩を自分でも体験してみたかったし、自分のアイデンティティを理解するためにも最先端技術を用いてみたかった。

23&Meの結果からしてやっぱり私は世界中の人種・文化のごちゃ混ぜ人間だという確信が持てたと同時に、「日本の血」がどれだけ少ないかということも改めて気づくことができた。



ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

Lia Camargo カマーゴ李亜 (東京在住)

East Asian & Native American 63.7%		European 29.9%	
● Japanese & Korean 49.7%		● Southern European 28.8%	
● Korean 49.5% >		● Spanish & Portuguese 28.2% >	
Jeju-do, South Korea		● Sardinian 0.4% >	
+4 regions		● Broadly Southern European 0.2%	
● Japanese 0.1% >		● Northwestern European 0.2%	
● Broadly Japanese & Korean 0.1%		● Scandinavian 0.2% >	
● Native American 13.7% >		● Eastern European 0.1% >	
● Broadly East Asian & Native American 0.3%		● Broadly European 0.8%	
Sub-Saharan African 3.5%		Western Asian & North African 2.3%	
● West African 2.3%		● Arab, Egyptian & Levantine 1.5%	
● Senegambian & Guinean 2.0% >		● Levantine 1.2% >	
● Nigerian 0.1% >		● Broadly Arab, Egyptian & Levantine 0.3%	
● Broadly West African 0.2%		● North African 0.6% >	
● Congolese & Southern East African 1.1%		● Broadly Western Asian & North African 0.2%	
● Angolan & Congolese 1.1% >			
● Broadly Sub-Saharan African 0.1%		Unassigned 0.6% v	

結果を見ると、East Asian のKorean 49.5%、私は「血」からしても Japanese はほんの0.1%。いつか日本人ではないパートナーと私が子どもを授かったとすると、その子の血に流れる「日本らしさ」はさらに薄まる。その子をクォーター (quarter) かクワドルプル (quadruple) になるのかと思うと、どうしても笑ってしまう。そこまでアイデンティティを血で表す言葉って、必要なんだろうか。

ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

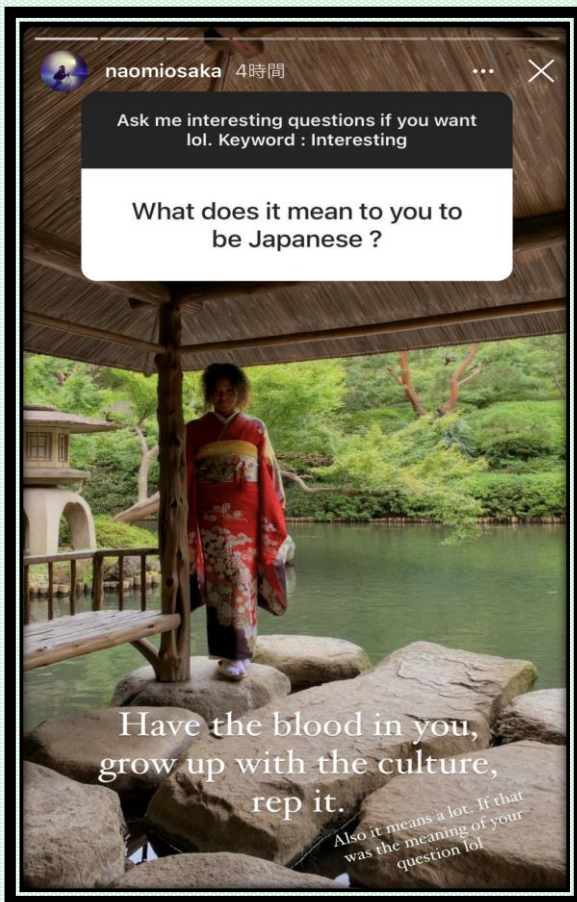
Lia Camargo カマーゴ李亜（東京在住）

だから私は自分のことを「ミックス」と呼ぶようにしている。似たようなごちゃ混ぜ人間のこともハーフではなミックスと呼んでいる。目に見えない遺伝子に拘らず、2つ以上の文化が当たり前の家庭で育った人全てが当てはまるインクルーシブ（包括的）な言葉だと思う。

Q: What does it mean to you to be Japanese?

日本人である意味とは何？

A: Have the blood in you. 血を持っているから。



この前大坂なおみ選手がインスタグラムに載せたストーリーのこと、ママに話したっけ？彼女は「What does it mean to you to be Japanese?」とフォロワーに聞かれ、それに対する回答の一部が「Have the blood in you」だったので、私はすごく引かかった。

ある意味日本の多様性のシンボルとして知られている大坂なおみ選手さえ、日本人であることと血の関連性が根付いてるということが残念に思えた。

血と国籍を無理やり関連づけようとするのはもう時代遅れじゃないかな。

血にこだわるのは、家族との繋がりを示す証拠かもしれないけど、家族のあり方は血のつながった形だけではないし、社会は変わりつつある。同性愛カップルの間に生まれた子ども、養子の子どもを迎えた家族が今後どんどん当たり前になってくるからこそ、血がつながっていないから家族ではないという古い考え方は捨ててもいいと思ってる。

ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

Lia Camargo カマーゴ李亜（東京在住）

でもそうすると、今度は日本人の新たな定義を考えないけなくなるよね。日本人であることはどういうことなのか。私は小さい時からずっと考えてきたことで、自分なりの答えはあるけど、今までこのようなことを考えなくてよかった人がこれを問い始めると、怖くなってしまふのは当然かもしれない。

常に変化している社会に対する恐怖を、愛国心に見せかけてるだけ。

NIKEのCMに対する批判も、まさにこのようなことかもしれない。

女性である日本人、在日である日本人、ブラックである日本人、マイノリティとみなされる日本人が主人公になっているこの動画を見たとき、なぜか私は最後に涙を流した。そして動画の下に流れている批判的なコメントを読んで、びっくりはしなかったけど、書き込みしている人たちがかわいそうだなと思ってしまった。

※ ナイキプレスリリースより抜粋

ナイキ、新しいフィルム「動かしつづける。自分を。未来を。」発表(nike.jp)



「動かしつづける。自分を。未来を。」は、現代の多くの若者と同様、ありのままの自分を受け入れられないことに悩む、実在のアスリートの証言をもとに作られています。フィルムでは、差別やいじめを受ける3人の10代の女子の物語に着目します。彼女達がサッカーを通じて繋がり、自信や楽しさを手に入れながらそれぞれの悩みを一緒に乗り

り越えていきます。スポーツに対する情熱を支えに、困難の中でも自らの能力をフルに発揮させていきます。

「ナイキは長い間、少数派の声に耳を傾け、支え、ナイキの価値観にかなう大義のために意見を述べてきました。スポーツにはより良い世界がどのようなものかを示し、人々の力を合わせ、それぞれのコミュニティでの行動を促す力があると考えています。」とナイキジャパンシニアマーケティングディレクターのバーバラ・ギネは述べます。

ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

Lia Camargo カマーゴ李亜（東京在住）

この人たちは、なぜ日本人の多様性に対して違和感を持っているのか、私には理解ができない。CMに出てくる子たちが日本を代表している人間だと受け入れると、何かをなくす、と考えるしまうからなのかな。私たちのような人間を「日本人」としてカテゴライズしないことによって、彼らは何を得ようと、何を守ろうとしてるんだろう。彼らにとって「日本人らしさ」はなんなんだろう。

たぶん、アメリカのトランプ支持者も同じような思考で、アメリカを「元どおりにしたい」「昔の素晴らしさに戻りたい」と言っているよね。常に変化している社会に対する恐怖を、愛国心に見せかけてるだけ。世界中どの国でも、多様性が当たり前になっていく変えられない事実に対して、そこまで怯えている人がたくさんいるという現実。これってどう解決すればいいんだろう。

各カテゴリーの中に存在する多様性を意識し尊重する

多様性が当たり前になっていく。これはジェンダーや性的指向、国籍や人種、様々なカテゴリーにおける多様性を指す。日本国内では外国人の親を持つ人が年々増えているという中、この「ミックス」「ハーフ」というカテゴリーに当てはまる人の多様性も増していくだろう。

この会報誌で取り上げられる私たちJAIF Kids(?)の話からも分かる通り、「ハーフ」「ミックス」に当てはまる人が全員同じ経験をしているわけではない。人種や性別、仕事や住んでいる場所によって、私たちの経験は影響され、自分のアイデンティティに対する考え方も変わってくるのは当然。この多様性を認め合い、尊敬し、私たちは「ハーフ」「ミックス」ではあるがそれだけじゃない、**we are so much more than that**ということも受け入れられる世界が理想だと私は思う。



ハーフでもダブルでもない多様性の中で輝く私 複数のアイデンティティ要素が生き方を左右する

Lia Camargo カマーゴ李亜（東京在住）

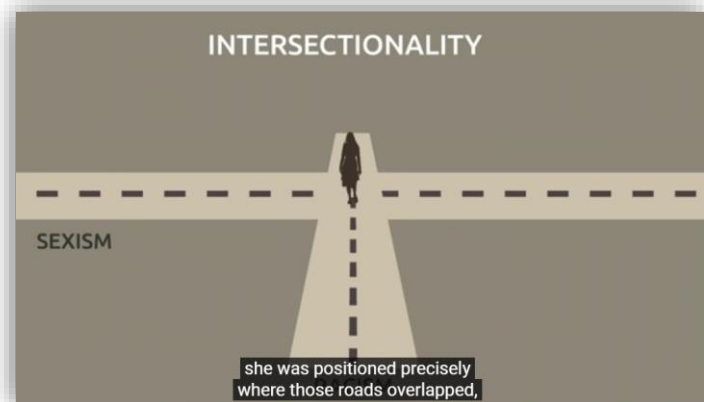
アメリカの女子大学に通い、ジェンダー学を専攻として選び、今は女性の健康課題を解決する商品を提供する フェムテック の会社で働いているけど、今までの研究と経験が明らかにするのは、私たちのアイデンティティは性別が全てではないということ。これを言語化してくれたキンバリー・クレンショー Kimberly Krenshaw 教授。個々のアイデンティティの要素は外見、内面、自分から変えられること、変わらないことがたくさんある。一つのアイデンティティ要素ではなく、複数の要素が交差しながら「個」の生き方が影響を受け、周りの人からの態度や、経験する差別や特権もこの交差性 (intersections) から生まれるということ。

女同士であっても女性全員が同じ経験をしてはいない。多様な社会を気づき持続可能にするには、この交差性 (intersectionality) を理解し、それに気づき、目を背けずに向かいあって生きるという責任はある。

The urgency of intersectionality

Krenshaw教授によるTED Talk

アメリカでは Black Lives Matter 運動が起こっている中、警察に殺された黒人は男性だけではないのに、女性の犠牲者の名前は誰も知らない。マイノリティであるから全員同じ経験をしているわけではなく、人種・性別・財力など様々な要素が加わっているんだよと Krenshaw教授は語っている。



「ハーフ」の中でも格差や経験の差があり、その原因は人種でもあり、性別でも、財力でもある。

「ハーフ」という共通のアイデンティティがある人は全員一緒、同じではなく、そのカテゴリーの中に存在する多様性を意識し尊重することが、国際結婚を考える会 (JAIF) のような団体の強みじゃないかなって思う。

2018年11月にHuffington Postに掲載された原稿から

「自分は何人？」の葛藤はない。私の中の日本とイギリスは、こう変わっていった。

Fiona K. Howard ハワード・フィオナ（イギリスReading在住）

イギリスも嫌いなところが結構ある。しかし、女性は平等に扱われている。私の多国籍に誰も異を唱えない。



私は一度も自分の国籍や、何人とかの葛藤があったことがない。

自分と同じようなバックグラウンドを持ち、日本に住みながら葛藤している人たちを思うと少し気まづくなる。私もいくつか問題は抱えているけれど、自分は何人かという問いはその中にない。私はイギリス人の父親と日本人の母親に日本で生まれた。母は、私が出生と同時に与えられるべきだった日本国籍を得られるよう、私の為に戦った。

しかし私は、国籍や何人かという概念は（交差するが独立したものだとは私は思っている）、革表紙の本やグレーのスーツと古い考えを持つ男性の承認によって決められるものではないということに気が付いた。

家庭で英語で話し（日本人の母親とも）、学校で日本語を話して育った結果、自然とバイリンガルになった。多くのミックスの人が経験するように、苗字がカタカナであることや外見だけを理由にいじめられた。

そんな中でも友達ができて、日本を離れて26年経った今でも仲が良く、中では生涯の親友と呼べる人もいる。いじめっ子は一人も覚えていない。ひどいものに記憶を費やす理由はあるのだろうか。私が覚えているに値しない。

記憶の限りでは、いじめを経験したことによって「純粹」な日本人やイギリス人になりたいと思ったことは一度もない。ただ、ありのままの私を一部の人たちが受け入れてくれないことは悲しかった。

「自分は何人？」の葛藤はない。私の中の日本とイギリスは、こう変わっていった。

Fiona K. Howard ハワード・フィオナ（イギリスReading在住）

私はずっと、2つの「国」を持っていると感じている。その思いは変わっていないし、これからも変わらない。日本人であり、イギリス人である。それが私であり、これからもずっと（でもこれを英語で書いているということは、私の中のイギリスの方が勝っているのかもしれない）

しかし私の「国」と個性は、イギリスに引っ越した時に変わった。自分のルーツが周りと違うことが珍しいことではなくなった。周りに受け入れられたのだ。

14歳の時に家族とイギリスへ引っ越し、人生最大の転機が訪れた。英語は喋れたが、大人にも自分の意見を言える子たちと一緒にいると自信を失ってしまい、自分の殻にこもってしまった。大学に行き、親元を離れた寮暮らしで自分の足で立たざるを得なくなって、初めて本当の「自分」になれた。

私の中の日本人が薄れ、イギリス人が湧き上がっていた。

私は丁寧だ。

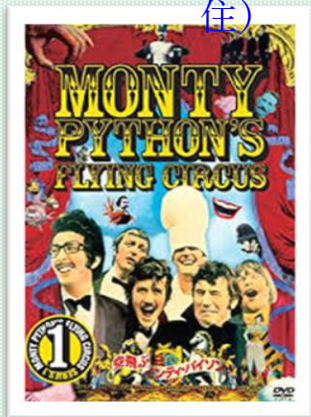
笑わなくてもいい時に笑うし、嫌味っぽいところもある。笑いのセンスは結構ブラックで、皮肉が好き。ミルクティーと緑茶も好き。食べ物はお米（しかし日本のお米に限る）と梅干しが一番好き。日本とイギリスは両方大好きで、両方嫌いだ。

自分が日本人だと感じさせるのは食べ物と文化が一番大きい。日本食が何よりも好き。流行りの漫画や小説を日本語で読んでいるし、仕事でパッとメモを取る時は日本語で書く。アジアのDNAのおかげか、いつまでも若く見るとイギリスでは言われる。



「自分は何人？」の葛藤はない。私の中の日本とイギリスは、こう変わっていった。

Fiona K. Howard ハワード・フィオナ（イギリスReading在住）



私の中のイギリス人は、ユーモア、皮肉っぽさ、態度にある。「モンティ・パイソン」に出会った時、イギリス独特のユーモアと恋に落ちた。イギリス人が持つ鋭いユーモアが、私の中にも生まれた。日本のお笑い番組を見ていると知性はどこにあるのか思わずにはいられない。皮肉、鋭さ、知性のあるユーモアはイギリスの方が得意だ。

そして私はイギリスに残ることを選んだ。

日本は大好きだ。伝統に染まった生活が好き。景色、社会の秩序、豊かな歴史と文化、人々の優しさが好き。ホームシックになって数年おきに日本を訪れるけれど、二度と住むことはないだろう。

イギリスも完璧な国ではない（ブレグジットこんにちは）。どの国のように人種差別やヘイトクライムはあって、他にも嫌いどころが結構ある。



しかし、欠陥のある社会であっても女性は平等に扱われている。日本の男女平等の低さの理解にただ苦しむ。低い理由は分かるが、改善されない理由が分からない。私の多国籍も、日本と違ってここでは誰も異を唱えない。

私の娘は3歳。彼女の父親は日本語を喋らないのと、日本語で喋るとしても私か私の母親しかいないので、日本語だけで話そうと思ったことがない。普段自分が思っていることは英語の方が表現しやすいので、娘にも自然と英語で喋る。

娘には、彼女の母親と祖母が日本出身であり、日本がルーツの一部であることだけは知っておいてほしいと思う。

これが私。イギリス人と日本人。どちらでもあり、どちらでもない。私の所有するもので、誇りに思っている。

① 6月27日(土) 11時30分～ (ZOOM講演12時30分～)
ランチミーティング 「体育会系 日本を蝕む病」 著者を迎えて
エッセイストのサンドラ・ヘフェリンさんを迎えてご自身が昨年出版した「体育会系日本を蝕む病」(光文社新書)についてのお話を伺った。サンドラさんは日本とドイツのご両親のもとに生まれエッセイスト、コラムニストとして活躍されている。日本の社会の同調圧力は実は学校生活に始まる「体育会系」の上下関係に端を発しているのでは?というテーマで楽しいお話をして頂いた。

当日のライブはこちら。

<https://www.youtube.com/watch?v=zkdplW9TJXw&feature=youtu.be>

② 8月8日(土) 21時～

パネルディスカッション 『国際結婚を考える会の歴史』

国際結婚を考える会の設立当時から会員となり、国籍法や入国管理法の改正に向けて大きな貢献をされた先輩会員をお招きし当時の活動やご苦労なされたエピソードについてお話をして頂いた。マロニー名子さん、ハワード弘子さん、蒔田直子さん、小暮朋子さんの4人。パネルディスカッションの形でお話しして頂き、その後参加者からの質問等に答えてもらった。特集内容は40周年記念会報誌、会報誌第1号に掲載。

[JAIF.indd\(filesusr.com\)](http://JAIF.indd(filesusr.com)) 一般公開版

[会報誌 | 国際結婚を考える会\(kokusaikazoku.com\)](http://会報誌|国際結婚を考える会(kokusaikazoku.com)) 会員限定版

③ 8月20日(木) 11時30分～

東京地方裁判所703号法廷 『国籍はく奪条項違憲訴訟公判』

東京地方裁判所において第9回国籍はく奪条項違憲訴訟公判が行われた。いよいよ結審となり、年内の判決が見込まれる。報告集会も同日13:30より、弁護士会館にて開催された。

④ 8月27日(木) 21時～

オンライン会員総会 2020年 『第1回臨時総会』

「国際結婚を考える会」の再出発にあたり会員総会を開催した。新しい会則、役員紹介、活動計画、予算その他を提案し協議した。

[会員専用連絡 | 国際結婚を考える会\(kokusaikazoku.com\)](http://会員専用連絡|国際結婚を考える会(kokusaikazoku.com))

⑤ 9月9日(水) 21時～

「国際結婚を考える会」新ホームページの紹介

2020年7月に一般公開となった新しいホームページを会員に紹介。ホームページを作成担当した飛塚伸子さんからホームページの成り立ちや機能などについて説明を頂いた。

<https://www.kokusaikazoku.com/>

- ⑥ 9月19日（土）21時～ 『コロナ禍の国際家庭』
新型コロナの収束が見えない中、世界各国の会員のコロナ事情や直面した問題などについてお話を伺った。報告の後に参加者からもコロナ禍の国際家族として抱えている不安などをシェアする時間を持った。
- ⑦ 10月24日（土）20時～ 『台湾・居留問題を考える会会長 大成権真弓さん ZOOM講演会』
台湾人と結婚した日本人妻たちが立ち上げた「居留問題を考える会」会長の大成権真弓さんにお話を伺った。大成権さんは、私達の国際結婚を考える会の国籍法改正の請願運動にも長年協力してくださっている。現在約470人の会員を抱えるこの会をどのように運営してこられたのか、また現在の台湾の現状、そしてこれからの展望など貴重なお話を伺った。
- ⑧ 10月31日（土） ハワイ21時、アメリカ西海岸12時、東海岸15時、中央ヨーロッパ20時 『オンラインお茶会』
自宅にいながら世界中の会員とお茶を飲みながら楽しく交流が出来た。
- ⑨ 11月5日（木） 『国際結婚を考える会』創始者メンバーを囲んでの交流会 滋賀県大津市
琵琶湖を見渡す山荘で手作りビールと石窯ピザを楽しみながら、有意義なひと時を過ごした。
- ⑩ 11月8日（日） 『新宿御苑散策 東日本秋のイベント』
毎年恒例になっている新宿御苑のピクニックは天候にも恵まれ、久しぶりに顔を合わせた。散策の後は、広い芝生の上にシートを広げてお弁当を食べながら、楽しい時間を過ごした。
- ⑪ 11月16日（月） 21時～ 『個人情報保護について学ぶ』
会に協力いただいている弁護士を講師に招いて個人情報保護法について学んだ。
- ⑫ 12月5日（土）日本時間21時～ 『海外でのシニアライフの迎え方』
オランダ在住の中村悦子さんとスイス在住のシュトッカーかほるさんにシニアライフについて詳しく教えて頂いた。オランダの年金制度は世界一優秀でネットで高齢者のケアを進め高齢者の94%が自宅で生活し地域社会全体でケアに取り組んでいるなど日本も見習ってほしい。一方スイスは所得も高いが物価も高い。日本と同じく高齢化が進んでおり年金だけで暮らすのは不安。お二人とも、ヨーロッパの優秀な年金制度のある国にお住まいでも、将来の不安はあるようだ。

2021年もたくさんのイベントを企画・計画しますので、奮ってご参加ください。また企画の提案がありましたらぜひご連絡ください。

韓国のお正月



Y.Y



韓国ではお正月を1年に2度祝います。西暦のお正月と旧正月(ソルナル)です。日本と同様に西暦の1月1日だけが祝日となっていますが、旧正月は前後合わせて3日間の連休になります。どちらをお正月として祝うかは各家庭によって異なりますが、1月1日は軽く過ごし、旧正月を大きく祝って家族親戚が集まる家庭が多いと思います。私の夫の両親(すでに他界)はクリスチャンでしたので、比較的簡素なお正月でした。それでも西暦1月1日に家族親戚が集まり日本のお雑煮のようなトックック(うるち米のお餅を牛肉あるいは煮干しでだしをとったスープに入れて頂く)や、カルビチム(牛肉のあばら骨つき部分を煮込んだもの)や魚や様々な野菜料理の皿を並べて一日中食べるので、一日で数キロ太りそうな気がしました。

年下の家族や親族は年上の前に韓国式の座り方で座り、セベ(歳拝)というお辞儀をします。そして、年上の人から言葉をかけてもらった後、セベトンというお年玉をもらいます。かなり成長してももらえます。大学生ぐらいまで！

お正月休みを利用して海外旅行などに行く人が多くなったので、以前よりは地方の実家に向かって移動する人は少なくなったかもしれませんが、それでもまだまだ大渋滞が起こります。列車や飛行機で移動する人も多いですが、山のようなおみやげや食料をもって車で移動する人が多いからです。地方の家族と久しぶりの再会も楽しい時間ですが、最近の若いひとたちは、親戚のおじさんやおばさんなどから「結婚まだしないの？ どうして？ 早く結婚しなさい！」などと言われるのが嫌で、帰省しても楽しくないという人たちが増えてきたようです。我が家の子供たちが小さい頃は友達と比べて韓国にいる親戚が少ないので、いとこ達も少なくてさびしい…と言っていました。

日本と同じように働く既婚女性も増えていて生活様式が急速に変化しているので、これからは簡素なお正月に向かっていくかもしれません。以前はすべて家庭で調理したものを食べていましたが、10年くらい前からお惣菜屋さんが人気で、夫と二人だけの旧正月には少しずついろいろなおいしい料理を食べたいと思い、私もよく利用していました。様々なキムチから肉料理、魚料理、野菜料理、デザートなど種類も豊富です。

韓国の親戚友人に向けて、**セヘ ボック マニ パドゥセヨ!**(新しい年の福をたくさんもらってください) 早くコロナ禍が終息しますように。

★ 2021年3月末までに年会費の納入をお願いします ★
《会計係より》

2020年『国際結婚を考える会』が新たに体制を変えて活動するようになり、会員も旧体制の会から58名が参加し、6名が新たに会員になってくださいました。

今年度からは年会費**2500円**の納入も始まります。

海外在住会員にとっては振込方法が頭の痛いところですね。今のところ会が推奨しているのは[Transferwise](#)です。

ご自分のアカウントを作成登録するだけで、送料も安く早く送れます。受取人の口座情報（ゆうちょ銀行）と会計担当のメールアドレス（wakame8354@gmail.com）が必要です。

また会員限定ですが、クレジットカードでの楽々オンライン決済も新たに可能となりました！この場合は、受取人負担の手数料約100円が上乗せとなるので、**2600円**のお支払いになります。

<国内から> ゆうちょ銀行 記号10140 番号13022521

コクサイケツコンヲカンガエルカイ

<他金融機関から>

店名〇一八（ゼロイチハチ） 普通預金 口座番号1302252

会費は**3月末**までにお振込みください。ご寄付も大歓迎です。（その場合は寄付と明記ください。）



次回予告 | 会報誌第3号 （2021年04月30日発行予定）

特集：『コロナ禍での国際家族の真実』

世界中の感染者が1億人を越えた（1/27時点）日々のニュースはコロナ一色。国際家族の私たちが直面した問題、体験談そして、ファクトかフェイクか情報はどうなっているの？ など世界にまたがる会員たちの声を募集します。

編集部から会員の皆様に連絡させていただきますので、ぜひご協力ください！ 貴重な記録を後世に残すためにもよろしくお願ひします。

※投稿そして会報誌第1号、第2号のご感想やご提言もこちらにお送りください。 jaif.edit@gmail.com

｜編集後記｜

◆ 今回の「こどもたちは今！」の特集に寄稿してくれた子どもたちありがとうございました。それぞれに着実に成長してくれているんだなあと、安心したり感動したりしました。国際結婚をして良かったのか？悪かったのか？夫と私の家族を巻き込み、生まれてきた子どもたちを巻き込み、その答えはまだまだ模索中ですが、親としての願いはただ一つ、子どもたちの幸せですよね。彼ら一人一人が幸せに生きることが出来る社会そして世界に行けたらと願います。とりあえず隣にいる夫とケンカせず平和に暮らすことが目標ですね（笑）

コールマンひろみ

◆ 国際結婚のこどもたちの思い、これまでは、断片的にしか聞く機会がありませんでした。今回、皆さんの、それぞれ異なる環境での体験を書いていただき「これが私なんだ」という肯定的な声を聞くことができ、子どもたちも、まわりが案ずるより強く育つものだと思います。自分たちと少しでも違う人たちへの、心の開き具合は遅れ気味の日本ですが、それも時の流れとともに、少しずつは変わっていくのではないかと、期待したいと思います。

ハワード弘子

◆ 昨年11月から編集会議を開き、企画、原稿依頼そして編集とようやく完成することができました。ご協力くださった皆様ありがとうございました。ハーフ、ダブル、ミックスかという議論を超えて、ここに登場した子どもたちはたくましく成長しています。海外を体験した国際家族は辛いこともあります、ある意味とても恵まれています。広い視野、他者へのシンパシーなど。これからも続けてJAIF Kidsの声を集めていけたらと思います。

カマーゴ・李 栄

◆ 会報誌2号、たくさんの方々のご協力で素晴らしい号になったと思います。皆さまありがとうございました。7人の国際結婚の子供たちの考え、意見のしっかりしていることに驚きました。JAIF Kidsのこれからの活躍がとても楽しみです。また、Y.Yさんは韓国のお正月について書いてくださり、興味深かったです。世界に会員が住んでいるこの会ですから、各国の文化の紹介など、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

小暮朋子

